

都の空

発行所

都の空事務局

事務局

東京都台東区東上野1-24-4

丸千第二ビル2F

浅野修一事務所内

TEL 03-3835-2233

FAX 03-3832-7175



ソロバンからコンピュータへ

東雲

四月八日、細川首相は、本年度予算審議の渋滞をもたらした一連の不祥事についての政治的・道義的責任を取るかたちで臨時閣議において

辞意を表明した。佐川急便からの一億円借入、N T T株式の購入問題について再々の説明、資料提出にもかかわらず野党（自民党、共産党など）が納得せず、関係者の証人喚問や参考人招致を求めており、さらに資金運用問題（昭和五十六年頃から数年間にわたる）が判明したため辞意を決意したようだ。

細川氏から国会へ提出された佐川急便からの領収書には、発行会社名も、領収印がなく、しかも、一、〇〇〇万円が一枚しかなく、疑問点の解明には不十分であった。

金丸事件は、所得税の脱税事件として東京地裁で審理されている。

わが国の政界で重きをなす者が、次々とこのような不祥事を引き起こすことは誠に遺憾であるし、多数の善良な納税者のことを思うと慚愧の念に耐えない。

国会議員には、国費によって秘書までつけられているのだから、事業者並の記帳義務と証拠の保存義務を課するのが至当である。

市民講師を終えて

田 村 都 彦 (昭和三十六年卒)

日四年に「三商會計人会」が発足し、はからずも私は、母校、三商の「市民講師」になる機会に恵まれました。そして、昨年、日五年度、その重責を果たすことができたのでその旨の報告と、「市民講師」をさせて頂いた感想等を以下述べてみたいと思います。

一、市民講師のきっかけ

当會計人会の事務局を一手に担っておられる宮川先生から、日四年、一通の手紙を頂きました。早大の片山教授等の推薦で、母校の市民講師依頼のおたよりでした。

又、好川会長、石田、高木副会長からも、大変、丁寧な激励のお手紙を頂き、恐縮した次第です。

軽い気持ちでいたのですが、これは、しっかりやらねば……と思っただ次第です。

二、決意後、当初、頭にえがいたこと

授業の内容は、「原価計算と会計実務」ということでした。指定されたテーマであるなら、私より他に適任者がいると、最初、辞退し

たのですが、篠塚教頭先生はじめ、黒葛原先生の方から、「実務の話しであるならば、何でも結構です。」ということ引受けた次第。

三〇時間をどうしようか。

旧人類である私が、新文明人の生徒に「しゃべることは」が、果して通ずるのか……いろいろ悩みましたが、とりあえず前半の一五時間は、「原価計算と実務を、そして後半は「会計の本義と社会人としての能力開発」ということで、大枠を決めました。

特に、後半の「会計の本義」については、将来性豊かな生徒さんに、簿記、会計を「技術論」としての理解でなく、その本義としての会計を訴えたかった。

一四九四年、イタリアの修道僧であったルカ・パチョーリが、ス

ンマ(数学大全あるいは、数学、幾可、比および比例全書)をまとめられた。その中で、「複式簿記」の原理がまとめられ、借方、貸方の意味が明らかにされている。

会計の原理は、借方、貸方の意味を越えて、「宇宙の秩序」を導くものであり、「陰陽の法則」に従って、「聖なるバランス」が会計であること、そして又、会計の発達は、時代の必要性に応じて変化、発達するものであることを、訴えたかったのである。

もう一つの、社会人としての、能力開発は、ビデオを使った学習を試みてみようと思った訳である。内容は、「気づきと挨拶」、「早起きと生活管理」、「報告、連絡、相談」など、社会人としての生活行動の必要性和その重要度を理解と同時に、どう実践させるか……であった。

職業専門家になって、二十五年MASを主要業務にしている私にとつては、経営者、管理者を中心とした「経営教育」は、それなりの経験は持っているつもりだが、十七、八才の子供にどう接するか不安だった。講義の前日、私は息子達(二十二才・二十才・十五才いずれも男子)を集め、どう接す

るか率直に相談した。彼等の私に對するアドバイスは、①遅刻しても怒らない、②ねむっても起こさない、③名前を呼ばない……等であった。

三、教壇に立ってみて

教壇に立つと、女性のリーダーから、「規律、気をつけ、礼」に始まる挨拶にはじまり、最後は、又「規律、気をつけ、礼」の挨拶で終わる授業は、新鮮だった。

生徒は、商業科とはちがう「會計科」のメンバー、約二十五人。授業は、選択科目であり、又授業時間が、通常の時間帯ではなく、夏休み、冬休みの時間及び、土曜日の午後といった、いわゆる「時間外時間」ということである。私にとつては、都合をつけやすかったが、生徒達にとつては、ちよつと出席しにくかったかなと思う。

授業は、一日四時限以内、一時限は、五〇分授業である。実務では、九〇分単位が多いから、五〇分授業は、「さあ、これから」と思うと終わってしまう。この時間は、「これをやる」といった一つのテーマをしっかりと決めてからねばならないことを痛感したわけである。

原価計算の実習に入る前に、私は、生徒達に、工場長や、生産管理マネージャーを対象とした「原価管理セミナー」で使用する教材で、原価計算のテストを試みた。驚くなかれ、実務家が苦戦する問題を、苦もなく解答するのである。

三商の會計科のレベルの高さを強く感じたものである。

四、市民講師をやって学んだこと
市民講師をさせて頂き、多くのことを学ばせて頂きました。

第一は、生徒達の純粹で、真面目な態度が印象に残りました。最後の授業終了後に、全員から「寄せ書」と感謝の「花束」を頂き、まさに、教師冥利を体験させて頂き、年賀状も沢山頂きました。先生が「心をこめて生徒(人)に接する」ことの重要さを改めて感じました。

第二は、三商の歴史の重さと、偉大な先輩がいることを認識したことである。こんな機会を与えてくれた校長先生をはじめとする学校関係者ならびに、好川会長を始めとする三商會計人会の皆様、厚く感謝いたします。

職場見学

平成五年12月20日 実施



熱心に講義を聞く生徒たち



荻野 久保田 宮川 田村講師
(幹事) (同) (同)



三商と謡曲

副会長 石田五郎 (昭和十一年卒)

私と謡との出会いは、昭和六年に三商へ入学したときでした。

音楽の時間は、喜多流の謡曲を正課とし、教師は松平鉄之助子爵で、一学年生全員が講堂へ集って松平先生が一句謡うと斉唱したものでした。あるときは、水道橋の能学堂へ赴き、喜多六平太師の『海士』(珠之段)を観能したこともありました。音楽に謡曲をすることは当時は相当な改革であったと思われまふ。

初代校長吉沢徹先生は、少年教育の理想に燃えた独自の教育理念をもって、生徒達に人生の処し方を教え、その風貌は類から類にかけて髪を生やし、正に和製リンカーンでした。「リトルゼントルマンたれ」「最善を尽くせ」がモットーで英語は相当高度のものを学習し卒業論文も課されていました。三商初期の生徒の身心はこの偉大な教育者によって培われました。卒業式の別れの曲は一般の学校では「仰げば尊し」と「蛍の光」と決まっていたましたが、三商では

これに換えて謡曲『鉢木』をもっていました。

この曲は、ある旅僧(実は時の執権最明寺入道時頼)が廻国行脚の折、信濃の国から鎌倉に上る途中、上野国群馬郡佐野村で大雪にあい、ある家に宿を乞うた。貧しいこの家の夫婦は粟飯でもてなしたまた秘蔵の鉢の木、梅、松、桜をも焚いて暖をとらせた。この主人の素姓は、佐野源衛門尉常世がなれの果であった。

卒業式で謡う場面は、翌朝、引留める夫婦に名残を惜しみながら立去る僧との問答のところです。シテ常世、ツレ妻、ワキ旅僧ワキ「よしや身の。かくては果てじた頼め。我世の中にあらん程。又こそ参り候はめ暇申して出づるなり」シテツレ「名残惜しの御事や。はじめはつつむ我が宿の。さも見苦しく候へど暫しは留り給へやワキ「留る名残のまゝならば。さて幾度か雪の日の」シテツレ「空冴え寒きこの暮に」

ワキ「何処に宿を狩衣」シテツレ「今日ばかり留り給へやワキ「名残りは宿に留れども。暇申して」

シテツレ「御出か」ワキ「さらば常世」シテツレ「またお入り」地謡「自然鎌倉に御上りあらばお訪ねあれ。(中略)共に名残や惜しむらん」これを、卒業生がワキ時頼で、在校生がシテ常世で謡うのですが相当感じが出ていたようです。

しかし、この位の練習では独りで謡えることは不可能であり、卒業後は、就職、大学、軍人歴五年、再就職等々の間十六年あまりにも社会的、現実的な事実のなかに埋没してしまい謡曲のことはすっかり忘却していました。再就職した業界は謡曲が盛なところで、私も誘われるまゝ、親世宗家の直門の師匠の許に入門し、謡曲と仕舞を始めてから四〇年、われながら一向に上達しないものだと思っています。

税理士会支部の新年会ではトツ

居が苦手な人も大丈夫です。ゴルフ、囲碁、将棋、麻雀はゲームですから、勝敗が分かれ、カオケにも優劣がつけられますわたくしが四組もあり、曲は「老松」に決めており、大宴会場でもマイクを使わず朗々と謡いあげます。千代に八千代に、鶴亀・松竹約十五年前に、イーデスさん

等目出度い字句が並べられ頗る喜ばれます。そのほか、新築祝いには「鶴亀」、成人式には「鳥帽子折」法事には「誓願寺」「隅田川」「融」が相応しい。春は「鞍馬天狗」「羽衣」、夏は「鶴飼」、秋は「紅葉狩り」「小督」、冬は「鉢木」等その折々に応じて小謡をすることも楽しい。

或ときは独吟で、また或ときは観能で暫し幽玄の境地に遊泳することは心の安らぎになります。謡曲はこのように、コミュニケーションに役立つほか、居ながらにして歴史を知る、花鳥風月と遊ぶ、詩歌を知る、名所旧蹟を訪れる。また大音声を発し、姿勢を正すことにより健康を増進する。発声は腹式呼吸であると共に、頭脳が、立方・地謡・囃子の三部であるを明晰にすると伝典に説かれてい

ます。私は松舞台で一時間位は正座をしても足が痺れることはありませんが、最近では小型の折畳み式座椅子で予防できますから、座のつて演ぜられる一種の歌舞伎で

あります。
 能の動きは、洗練された簡素端的な動作のなかに、あらゆる意味を表現する極限までにむらを切り捨てた簡素かつ象徴的な芸で、さらに謡と一体となつて幽玄の世界を出現し、観衆はその中に無限の世界を感得するわけで、同じ室町時代に発達した茶道と同じく、禅の影響と見ることができます。
 能の創始者、観阿弥・世阿弥の時代背景と思想哲学を更に深く探求したいときには、その著書「風姿花伝」「花鏡」を繙くべきです。その著書中には屢々・各所に仏典に出現する仏・菩薩が登場し、文の字句が多く引用されています。その一節に「花とて別にはなきものなり。奥義を極めて萬に珍しき理を我と知るならでは、花はあるべからず」彼は花のなかに、生命力の発揚を見出している。
 草や木や花等の非情の物質と雖も、春来りて風雨の緑に会つて無心の草木も皆萌え出で、花咲き栄えて秋の時に至りて月光の緑に会つて実皆悉く成熟して一切の有情を養育す云々と仏典にはあり、草木有情・草木成仏を証明しているのです。この思想を取り入れたのが、能によく登場する花の生霊でありこれは明らかに仏教の影響といることができます。



ともあれ、三商で謡曲に触れた縁で四十年も続けることになつてしまいました。謡に限らず、年配者は何か趣味をもつことは優れた健康法であると思います。
 謡曲『羽衣』に寄せて
 いつわりは
 人の世にあり 霞たつ
 三保の松原
 天女やさしも

緑深く閑静な皇居のほとり



ご婚礼／宴集會
 ご宿泊／お食事



出逢いたいせつに

九段会館

〒102 東京都千代田区九段南1-6-5

TEL 03 (3261) 5521

皇居のお濠をのぞむ美しいロケーション。

伝統のなかにもシティ感覚を豊かにとりいれた館内。

ご婚礼、各種ご宴会ご宿泊お食事を

幅広くご利用いただけます。

●地下鉄東西線・新宿線・半蔵門線

九段下駅から徒歩1分

母校の思い出

奥村 (小山) 雅夫
(昭和二十二年卒)

先日突然に投稿のご依頼があったので、これという原稿が思い浮かばないので母校在学当時の思い出を乱文ながら書かせていただきます。

三商會計人会発足以来、創立総会をはじめたびたびの招集にもかかわらず、都合がつかず出席ができなくて申し訳なく思っています。

今回はじめて平成六年一月二十八日に開催された新年賀詞交換会に出席して、先輩・後輩の方々と学校のこと、職業上のこと等、いろいろと歓談ができて良い思い出ができました。これからも出来るだけ都合をつけて出席したいと思っていますから、よろしくお願ひします。

現在は京都府城陽市 (京都と奈良のどちらへも二〇 km の中間点) に住んでいます。もととは墨田区緑町二丁目 (現緑二丁目) に住んでいました。私が卒業したのは昭和二十二年三月でした。この年は学校が戦時中の四年制短縮から本来の五年制に戻った年だったの

で卒業の年を選択出来ませんでした。私は四年制の方を選びましたが、卒業後学校の推薦で野村生命 (現東京生命) 本社に就職しましたが昭和二十一年六月に家庭の事情もあって両親の郷里である滋賀県 (草津市) に移住しました。

その後幾度か転職がありましたが昭和二十三年十月に京都の税理士事務所に就職し、昭和四十五年税理士の登録をし開業、昭和四十七年現在地に移転しました。

在学当時の思い出としては、昭和二十年三月に緑町で、同年六月に神田須田町で戦災に遭い、その後学校の二階 (当時の職員室の上の教室) に清明寮と名付けて約一〇人程度が清田先生 (簿記・本会の元顧問で平成五年死去) の管理のもとに住んでいました。前述の滋賀県に移住するまでの約一年間、発育ざかりにもかかわらず僅かな食料をやりくりして過ごして来ました。当時は授業も一週間に水曜日の午前中だけで教科は教練のほか外国語 (中国語・マレー語

・夕方ログ語) が主体でした。入学一年生のときは担任は坪井先生 (英語) で、その年の四月に米軍による東京初空襲があり教室内で待避したことを記憶しています。

二年生は担任は寺山先生 (国語・平成五年死去) の二年間は教練が多かったがなんとか授業は続けられました。三年生の担任は田島先生 (体操) で六月頃から浅草区役所 (現台東区役所) 土木課へ勤務動員に仕事は防空壕・貯水槽堀りと、疎開建物の取壊でした。

4 年生は前述のとおりで、担任は上条先生 (英語・当時は ?) でしたが、この先生も平成五年死去されました。平成五年はこのように三人の恩師がなくなりました。ご冥福をお祈りいたします。このように私の学校生活は満足に勉学に励むことができませんでした。これも当時の情勢としてはやむを得ないことでしたが、江戸川べりの学校農園・館山の臨海学園等いろいろの思い出がありました。

しかし終戦の昭和二十年九月から卒業までの七カ月は毎日夕方まで詰め込みの授業でした。これで

プランクのあった授業もある程度、遅れを取り戻すことが出来たと思えました。このほかに思い出としては、自宅から学校まで距離が四 km 以内の者は徒歩通学を強制されておりました。私の場合は四 km を僅かの差で超えていたので電車 (都電) により通学できましたが、学校に一番近い越中島でなく門前仲町までそこから歩くことになっていました。途中で上級生に会うと敬礼をすることに慣れておりましたが、これを怠ると殴られました。

また毎朝の冷水摩擦も三商の名物行事でした。夏季はまだしも冬季はつらい思いでした。第十五期 (昭和二十一・二十二年卒業) の同窓会は現在のところ五年ごとに開かれています。前回のときに年々人数が減るので三年毎にという話しが出てきました。

同期には、先日当会で講演があった明大学長の岡野加穂留君がいます。：彼が出世頭でしょう。卒業以来四十数年になります。が、お互いに健康に留意していません。寄る年の波には逆らわれないものの、当会の諸先生にはくれぐれもご健康に注意していただきたいと思います。

総会日程決まる

これで私の思い出を終わらせていただきます。また皆様方と再会できる日を期待しています。

日時 6月25日 16:00より
場所 九段会館 (東西線九段下1分)

お誘い合わせの上、多数ご参加下さい。

平成 6 年 5 月

三商會計人会
会長 好川栄一

事務局

東京都台東区上野1丁目24番4号 丸千第二ビル2階 浅野修一事務所内
電話 03 (3835) 2233番 (代表) F A X 03 (3832) 7175番



三商会計人会 平成6年4月8日 ホテル味香閣

"^{アルファ}プラスαのオフィス創造" それがミヤギのテーマです。

オフィスは
快適ですか？

あなたのオフィスは
疲れていませんか？

スペースは
生かされていますか？

書類は
すぐ出ますか？

オフィスでの「暮らし方」を提案します。

人生のなんと1/3をわたしたちはオフィスで過ごします。
オフィスは生活の場であり、暮らしの場でもあるわけです。



株式会社 **ミヤギ**

- 本社 ▶ ⑩103 東京都中央区日本橋本町1-4-9
 ▶ tel. 03-3241-3188 ▶ fax. 03-3241-5446
- 日本橋支店 ▶ tel. 03-5695-4011 ▶ fax. 03-5695-4991
 新宿支店 ▶ tel. 03-3375-4401 ▶ fax. 03-3375-7473
 深川支店 ▶ tel. 03-3642-2812 ▶ fax. 03-3642-2413
 人形町店 ▶ tel. 03-3662-6813 ▶ fax. 03-5695-4994
 本町店 ▶ tel. 03-3241-5136 ▶ fax. 03-3241-5116
 新宿野村ビル店 ▶ tel. 03-3346-2355 ▶ fax. 03-3346-1986
 新宿センタービル店 ▶ tel. 03-3345-1346 ▶ fax. 03-3345-1394

(宮城 貞一郎 昭和14年卒)



香りはテレパシー。

見えない、けれど伝わる。

感じる、より心深く。言葉を超えて。

ダイレクトに心に沁み入ってくる。

豊かで、あふれるばかりのテレパシーとなって……

香り。その不思議を求めて、90年。

長谷川香料株式会社

〒103 東京都中央区日本橋本町4-4-14 電話03(324)1151(大代表)

T. HASEGAWA U.S.A., INC. (California)

T. HASEGAWA CO. (S.E. ASIA) PTE. LTD. (Singapore)

